2026(令和8)年度
JA尾道市

安全でおいしい米づくり

営農経済部 (0848) 20-2811
東尾道営農センター (0848) 56-1231
尾道北営農センター (0848) 29-9611
御調支店 (0848) 76-2242

栽培管理日誌は必ず記入し、出荷にあたっては必ず提出しましょう。

◎農薬の安全使用基準を守って正しく使いましょう!!　◎良質米づくりの基本は土づくりから!!

◎お米はJAへ!!　◎農作業中の事故のないように注意しましょう!!

◆ JA米について ◆　JAグループ広島では、平成19年産米から安全・安心を基本とした『JA米』に全面的に取り組んでいます。
JA米とは、3つの要件を満たし、かつJA米以外のお米と区別して、契約・検査・集荷・販売されるお米です。

★ JA米の3つの要件 ★　1. 毎年の種子更新又は育苗センターで購入した苗。　2. 検査機関で検査されたお米。　3. 栽培履歴及び自己点検チェックシートの記帳されたお米。

育苗の手順

塩水選　不良もみを除去する。
もち 1.08　うるち 1.13
生卵による比重液の調整
水20ℓに対し
食塩 うるち 4.2kg / もち 2.3kg 目安

水洗い　塩分を落とす。

消毒　水20ℓに対し
ばか苗病他　テクリードCフロアブル 100㎖(200倍)
心枯線虫　スミチオン乳剤 20㎖(1000倍)
24時間浸漬

風乾　水洗いせず1日程度陰干しし、もみの表面が白くなるまで乾かして消毒剤をよく付着させる。

浸種
・必ず停滞水で行い、水量は種籾量の4倍量で行う。
・最初の2日間は水交換しない。
・水の交換は静かに行う。

催芽　30℃の温度でハト胸状態に催芽する。
正しいハト胸 1mm

播種
播種量(1箱当り)

苗の種類(葉数)	催芽もみ	乾燥もみ換算
稚苗(2.2~2.5葉)	160~180g	130~145g

水10ℓに対し
カビ・苗立枯病予防
ナエファインフロアブル10㎖ (1000倍) 20箱分
播種直後立枯カビ防止 0.5ℓ/箱

覆土

育苗管理
育苗器使用の場合
発芽温度28~30℃ 2~3日間とする。
(温度管理に十分留意する。)
緑化・硬化期
ハウス・トンネルの換気を十分に行い、過湿にしない。

種もみ量に対する薬液・水の量の目安

植付面積の目安	約30a	約65a	約1ha
種もみの量	10kg	20kg	30kg
種もみ消毒時の水の量	20ℓ	40ℓ	60ℓ
種もみ消毒薬 テクリードCフロアブル 200倍	100㎖(1本)	200㎖(2本)	300㎖(3本)
殺虫剤 スミチオン乳剤 1000倍	20㎖	40㎖	60㎖
浸種時の水の量	40ℓ	80ℓ	120ℓ

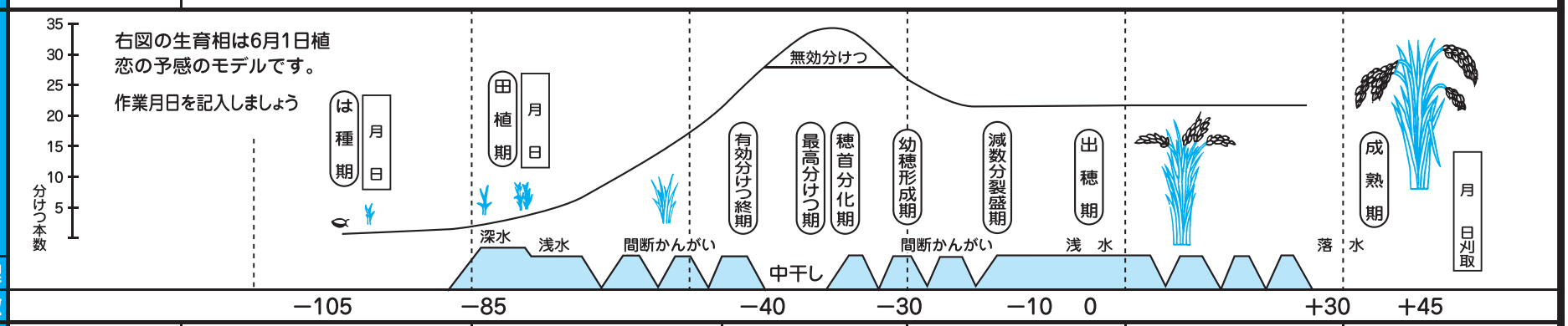
時期

10~3	4	5			6			7			8			9			10		
	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下

生育のめやす

恋の予感	田植 −20日 は種 / 出穂 −85日 田植 / 出穂 −24日 穂肥1 / 出穂 −10日 穂肥2 出穂 / 出穂 +45~50日 成熟期
あきさかり	田植 −20日 は種 / 出穂 −75日 田植 / (出穂 −35日 中干し) 出穂 −24日 穂肥 / 出穂 / 出穂 +40~45日 成熟期

生育相



主な作業

異常気象にも強い健康な稲をつくるには、地力の増強が第一です。
冬期農閑期に有機物や土づくり肥料を施し「土づくり」に努めましょう。
刈取り後は獣害を防ぐため、早めにすき込み、藁の発生を防ぎましょう。

基肥 は、代かき前に施用。
○代かきは、ねりすぎないように注意する。
○植付本数は3~5本。植付深さは2~3㎝。
○栽植密度のめやす
恋の予感　50株/坪
あきさかり　40~50株/坪
○除草剤は適期に使用する。

追肥 は、田植後15~20日頃に施用。
○赤枯症や、ガス発生防止のため間断かんがいを行う。
○硫黄欠乏症対策　過石を施用する。10kg/10a
○ガス対策に豊土サングリーン(追肥用)を施用。5kg/10a

【高温対策】
○「けい酸加里」を出穂前40日頃に施用しましょう。
○根腐れ防止・根の健全化のため中干しを行う。
○恋の予感は強い中干しをしない。

タイプ	肥料名	施用量
中干し前に施用	マルチサポート2号	40kg/10a
	ケイ酸カリ	40kg/10a

穂肥1 は、出穂前24日頃に施用。
穂肥2 は、出穂前10日頃に施用。
○出穂前後の病害虫防除を行う。
○高温が続いた場合、水を掛け流し、水温の上昇を抑制しましょう。

○食味低下になるので出穂後は追肥はしない。
○早期落水は、品質低下になるので適期落水を行う。

○コンバイン収穫は青味籾率5%~10%。
○乾燥：急激な乾燥はしない。
○調製：異物等を丁寧に取り除く。
○収穫後は早めに耕起し、稲わらの腐熟促進を図る。
○紋枯病及びごま葉枯病の発生した圃場では、稲わらの持ち出しを行う。

土づくり肥料施用例 (10a当りkg)

肥料名	施用量(10a当り)	備考
アヅミン	30~40kg	腐植酸配合により、地力増進効果を高める。
ミネラルG	100~200kg	ごま葉枯病の発生する秋落田。
ミネラルPK	60~100kg	L型肥料で不足しがちな、リン酸と加里を補給。

稲わら腐熟促進資材 (10a当りkg)

資材名	施用量(10a当り)	備考
豊土サングリーン	5kg	光合成細菌、繊維素分解菌等がわらを分解させ、有害ガスを分解。
石灰窒素	20kg	石灰のアルカリ効果と窒素で分解を促進。
アグリ革命細粒	2kg	低温期間でも酵素の力で稲わらを分解。直接わらに付着させて分解させる。

防除体系

箱処理剤 (圃場にあったものをいずれか一つ選択)

ウンカ・紋枯病対策
(は種時~移植当日)
スクラム箱粒剤
いもち病・紋枯病・ウンカ類・コブノメイガ
イネドロオイムシ・イネミズゾウムシ 他
50g/箱 (　月　日)

稲こうじ病対策
(移植3日前~移植当日)
サンエース箱粒剤
いもち病・紋枯病・稲こうじ病・ウンカ類・コブノメイガ
イネドロオイムシ・イネミズゾウムシ 他
50g/箱 (　月　日)

ウンカ対策
(は種時~移植当日)
防人箱粒剤
いもち病・ウンカ類・コブノメイガ
イネドロオイムシ・イネミズゾウムシ 他
50g/箱 (　月　日)

※紋枯病・稲こうじ病は菌核・胞子が越冬し伝染源となり、翌年同じ圃場で発生します。圃場にあったものを選択しましょう。

粉剤体系

(出穂前 10日)(収穫 21日前まで)
ビームトレモンセレン粉剤DL
いもち病・紋枯病・ウンカ類・コブノメイガ
カメムシ類・ごま葉枯病 他
3~4kg/10a (　月　日)

(出穂後 5~7日)(収穫 7日前まで)
ブレードスタークル粉剤DL
いもち病・ウンカ類・カメムシ類 他
3~4kg/10a (　月　日)

粒剤体系

(出穂前 20~15日)(収穫 45日前まで)
ゴウケツモンスター粒剤
いもち病・紋枯病・稲こうじ病・ウンカ類
カメムシ類他
3kg/10a (　月　日)

(出穂時~出穂後 7日)(収穫 7日前まで)
スタークル粒剤又は豆つぶ
ウンカ類・カメムシ類 他
3kg/10a (　月　日) 250g/10a (　月　日)

農薬散布後7日間は、落水・かけ流しをしないで下さい。

※ カメムシ類多発時は出穂前後にスタークル剤を散布しましょう。
※ ごま葉枯病対策にはワイドパンチ豆つぶ+スタークル豆つぶを散布しましょう。

除草剤使用基準

日数: 代かき −7日　田植 +0日　+5日　+10日　+15日　+20日　+25日

＊ 体系処理は①か②のどちらかで行なってください。

① 初期剤処理 (植代後~移植7日前まで) -7日 → 体系処理剤適期
＊初期処理剤(下記の剤から1つ)
・サキドリEW(代かき同時)
・クリアホープフロアブル(代かき後・藻対策)
・先陣ジャンボ/1キロ粒剤(代かき後・藻対策)

② 初期剤適期(移植後) → 体系処理剤適期

※登録内容を確認の上、使用して下さい。
※除草剤使用後7日間は、落水や掛け流しを行わないでください。
※軟弱苗の移植田、極端な浅植え田、極端な深水田、砂質土で漏水の大きな水田は、薬害が出やすいので注意が必要です。

田植 +3日 +10日 一発処理適期

体系処理剤・一発処理剤(下記の剤から1つ)

品名	粒剤	フロアブル	ジャンボ
ジェイフレンド	移植時 移植直後~	移植後5日~	移植後5日~
アシュラ	移植時 移植直後~	移植時 移植直後~	移植直後~
天空	移植時	移植時	移植後1日~

初期剤 (　月　日)　体系処理剤・一発剤 (　月　日)

kg/10a当り 施肥設計例

		基肥 (　月　日)	追肥 (　月　日)	穂肥1 (　月　日)	穂肥2 (　月　日)
恋の予感	基肥一発	中生い~ね755 60kg	※肥持ち・水持ちが悪い圃場は、肥料を1割程度多めに施用。 ※【高温対策】けい酸加里40kgを11月~基肥施用時に同時散布。		
	分施型	い~ね403改 30kg ようりん 20kg	い~ね403改 10kg	い~ね707改 15kg	い~ね707改 10kg
あきさかり	基肥一発	JBあきさかり502 40kg	※倒伏軽減のため、ケイ酸加里(40kg/10a)を施用。		
	分施型	い~ね403改 30kg ようりん 20kg	い~ね403改 10kg	い~ね707改 10kg	い~ね707改 10kg

中後期 (発生に応じて使用)

藻類・ウキクサ対策
モゲトン粒剤 (　月　日)
2~3kg/10a
発生初期(収穫45日前まで)
※湛水散布
3回まで

ヒエが残った場合
トドメMF1キロ粒剤 (　月　日)
1kg/10a
移植後14日~ノビエ5葉期
(収穫50日前まで)
※湛水散布
3回まで

トドメMF乳剤 (　月　日)
200㎖/10a (水100ℓに溶かす)
移植後14日~ノビエ7葉期
(収穫50日前まで)
※湛水散布又は落水散布
2回まで

ヒエ以外の雑草が残った場合
バサグラン粒剤 (　月　日)
3~4kg/10a
移植後15日~収穫45日前まで
※落水散布
1回まで

コナギ対策
ウィードコア1キロ粒剤 (　月　日)
1kg/10a
移植後7日~ノビエ4葉期
(収穫60日前まで)
※湛水散布
2回まで

ヒエおよび広葉雑草が残った場合
レブラスギア1キロ粒剤 (　月　日)
1kg/10a
移植後14日~ノビエ4葉期
(収穫60日前まで)
※湛水散布
1回まで

トドメバスMF液剤 (　月　日)
1000㎖/10a (水100ℓに溶かす)
移植後15日~ノビエ6葉期
(収穫50日前まで)
※落水散布
2回まで

畦畔雑草対策
グラスショート液剤 (　月　日)
300~500㎖/10a
(水50~100ℓに溶かす)
草刈り後10日~20日の雑草再生期
(雑草草丈10㎝程度)
※雑草茎葉散布
3回まで

※昨年倒伏が激しかった圃場や、堆肥を1,000kg以上施用した圃場では、肥料の施用量を1割~2割程度減らして下さい。　※農薬内容はR7.10月末現在の登録情報を参考に作成しています。

無断転載禁止！